

2025年11月5日

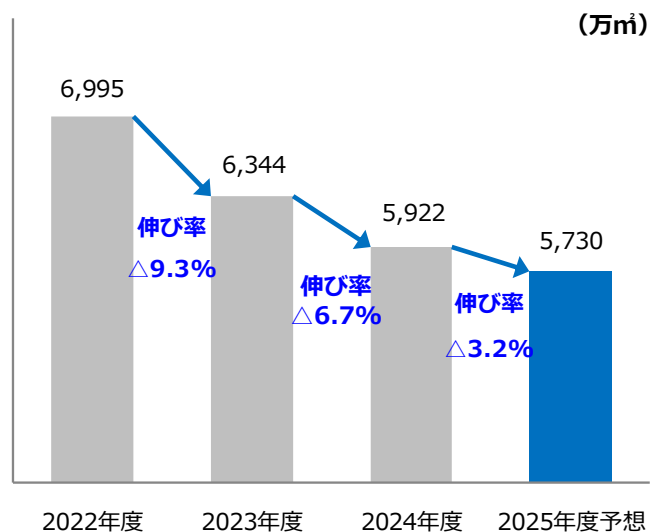
2025年度第2四半期

不二サッシグループ 決算説明資料

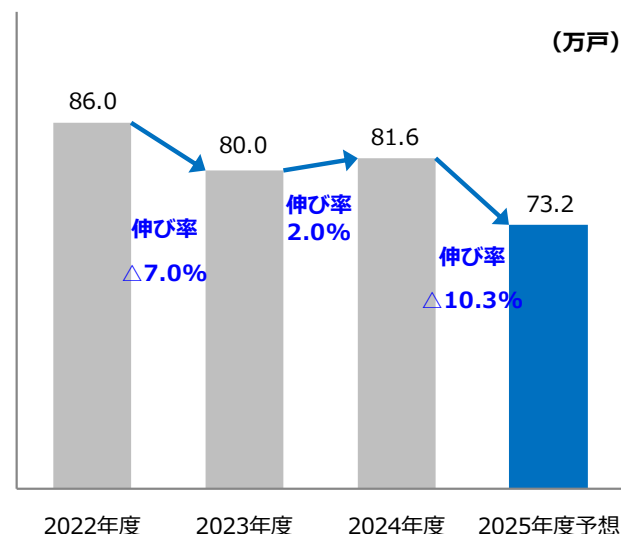
不二サッシ株式会社

I . 2025年度 第2四半期決算の概要

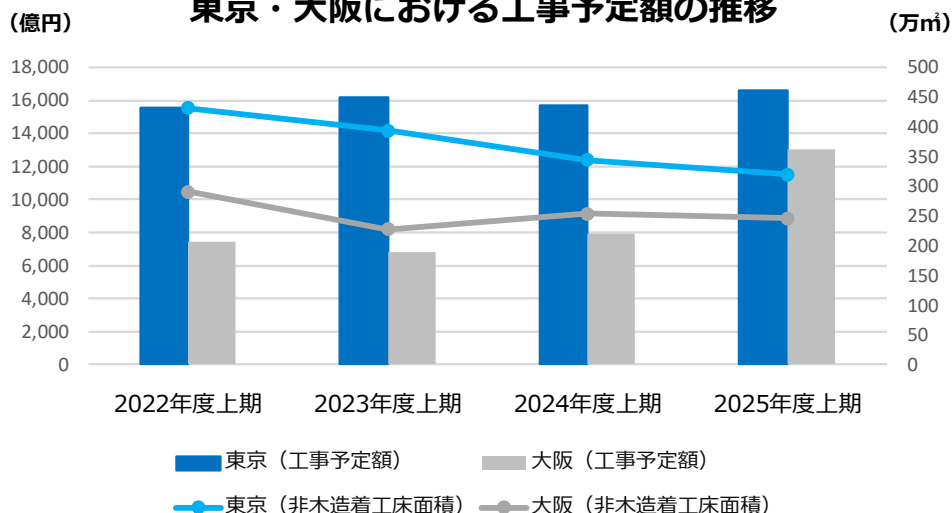
非木造建築物着工床面積（4-3月）



新設住宅着工戸数（4-3月）



東京・大阪における工事予定額の推移



全国的に非木造建築物の着工床面積は減少傾向にありますが、工事予定額は東京・大阪エリアにおいて堅調な推移を見せています。

【出所：国土交通省 建築着工統計調査・(一社)日本サッシ協会・(一財)経済調査会】

2025年度 第2四半期決算の業績について

【連結】

(百万円)

	2024年度上期		2025年度上期			
	実績		実績		前年同期比	
		売上比		売上比	増減額	%
売上高	47,648		48,273		+624	101.3
売上原価	40,997	86.0	41,195	85.3	+198	100.5
売上総利益	6,650	14.0	7,077	14.7	+426	106.4
販管費	6,738	14.1	6,715	13.9	△23	99.7
営業利益	-87	-0.2	362	0.8	+449	-
経常利益	55	0.1	415	0.9	+360	654.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	-110	-0.2	439	0.9	+549	-

■売上高・営業利益（増収増益）

当社は例年、年度末（3月）に業績が集中するため、上期は収益面で厳しい傾向にあるが、各種取組みの成果により、営業利益・経常利益・当期純利益が黒字を達成。特に営業利益は9期ぶりの黒字となり、厳しい環境下でも増収増益となった。

セグメント別 売上高・営業利益

【連結】

(百万円)

	売上高			営業利益		
	2024年度 上期実績	2025年度 上期実績	対前年比	2024年度 上期実績	2025年度 上期実績	対前年比
建 材 事 業	33,738	34,114	101.1% +375	515	1,054	204.8% +539
形 材 外 販 事 業	11,220	10,794	96.2% △ 426	70	-7	- △ 78
環 境 事 業	1,045	1,509	144.5% +464	-28	58	- +86
物 流 事 業	1,490	1,695	113.7% +204	209	227	108.4% +17
そ の 他 事 業	152	159	104.4% +6	97	89	92.2% △ 7
(消去又は全社)	-	-	-	(952)	(1,060)	△ 108
合 計	47,648	48,273	101.3% +624	-87	362	- +449

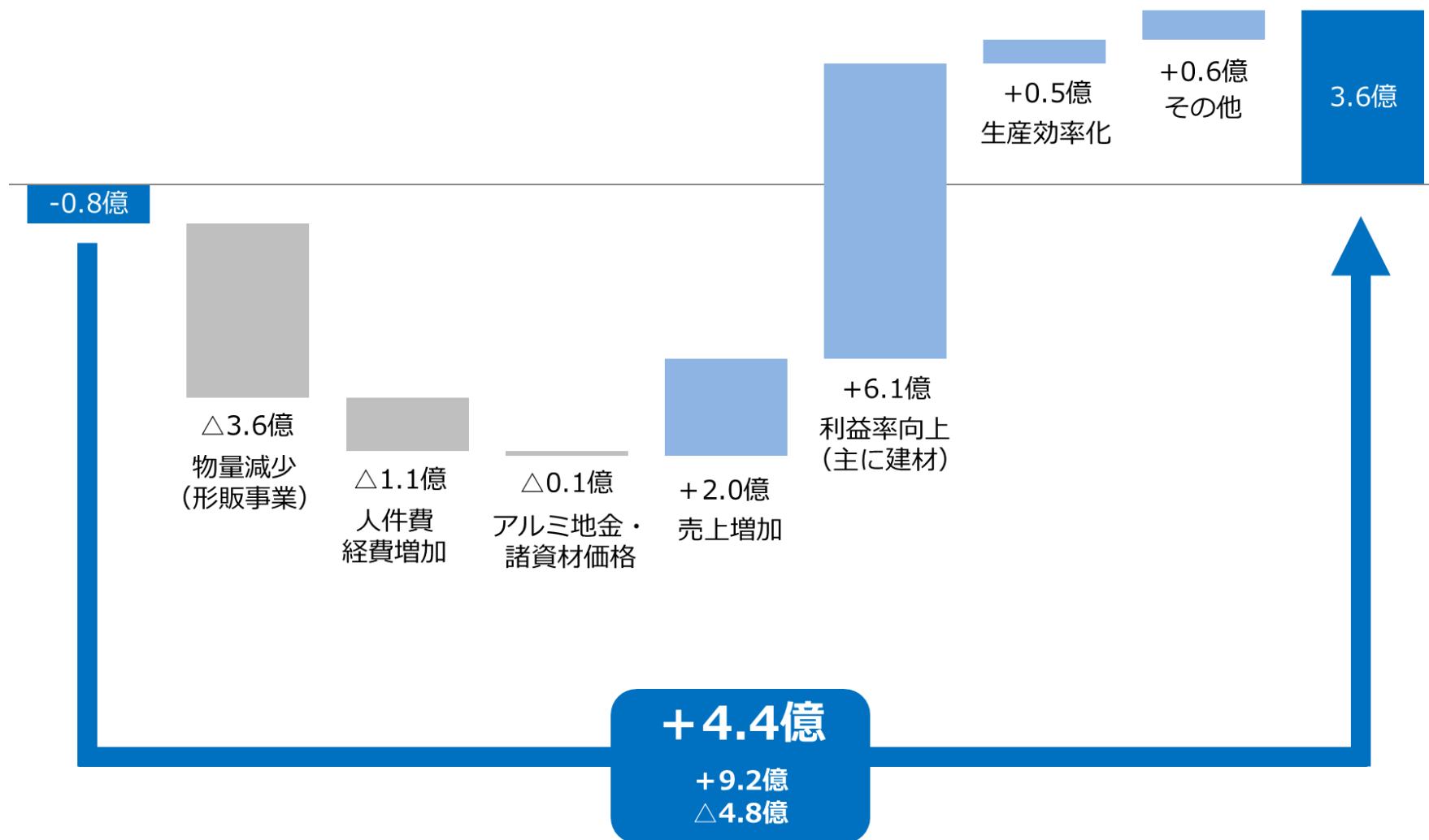
営業損益増減分析（前年比・要因別）

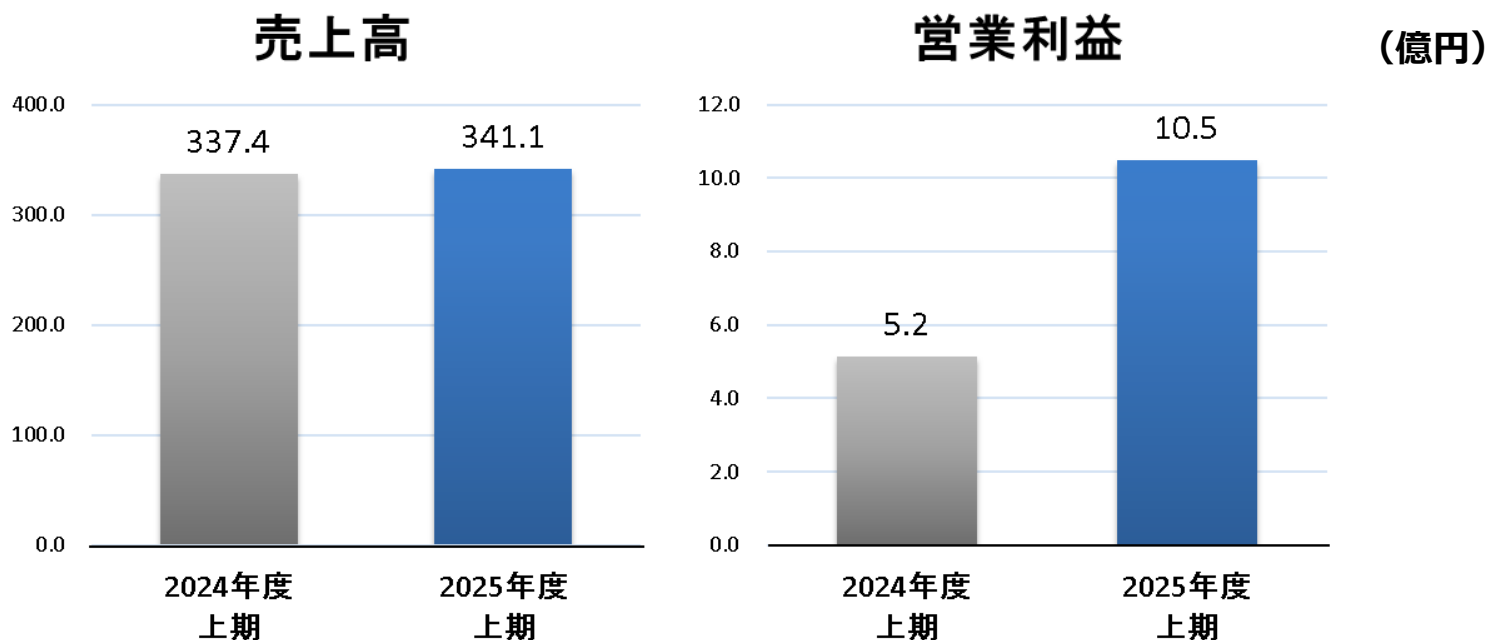
2024年度

上期

2025年度

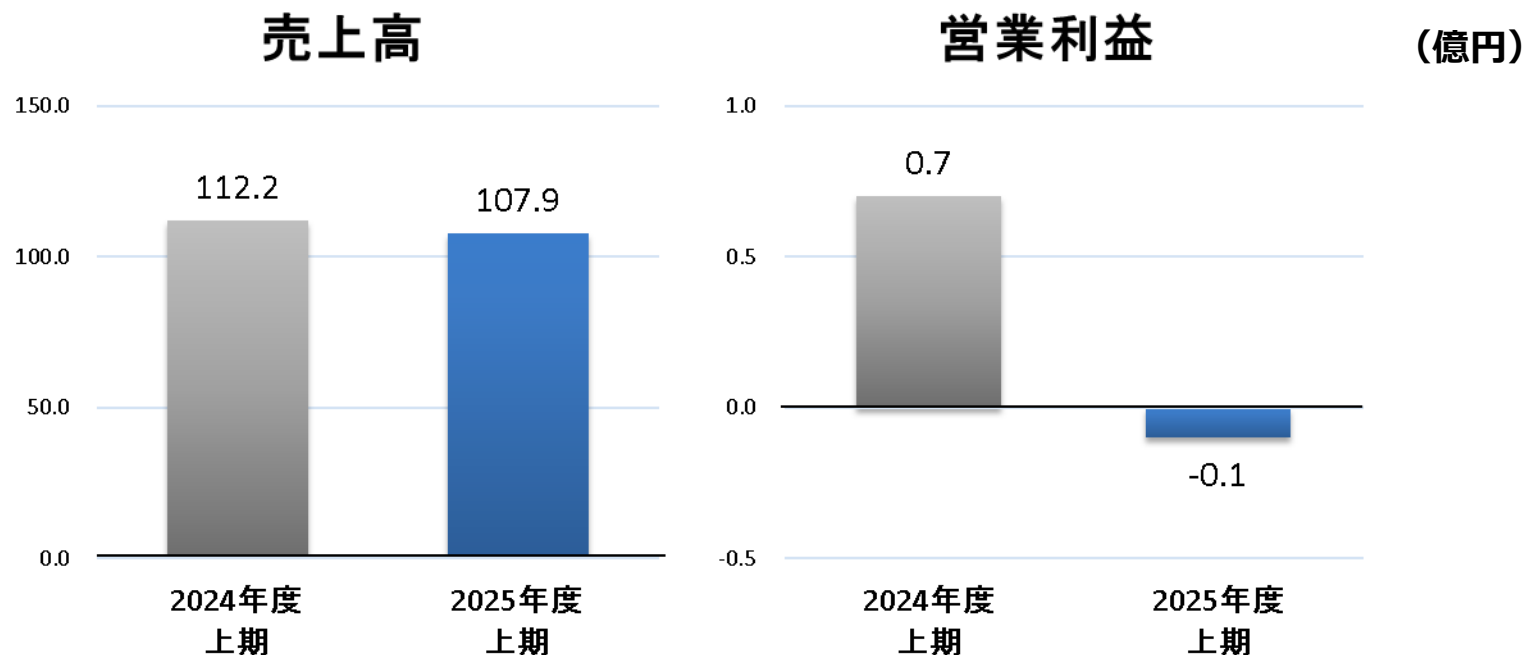
上期





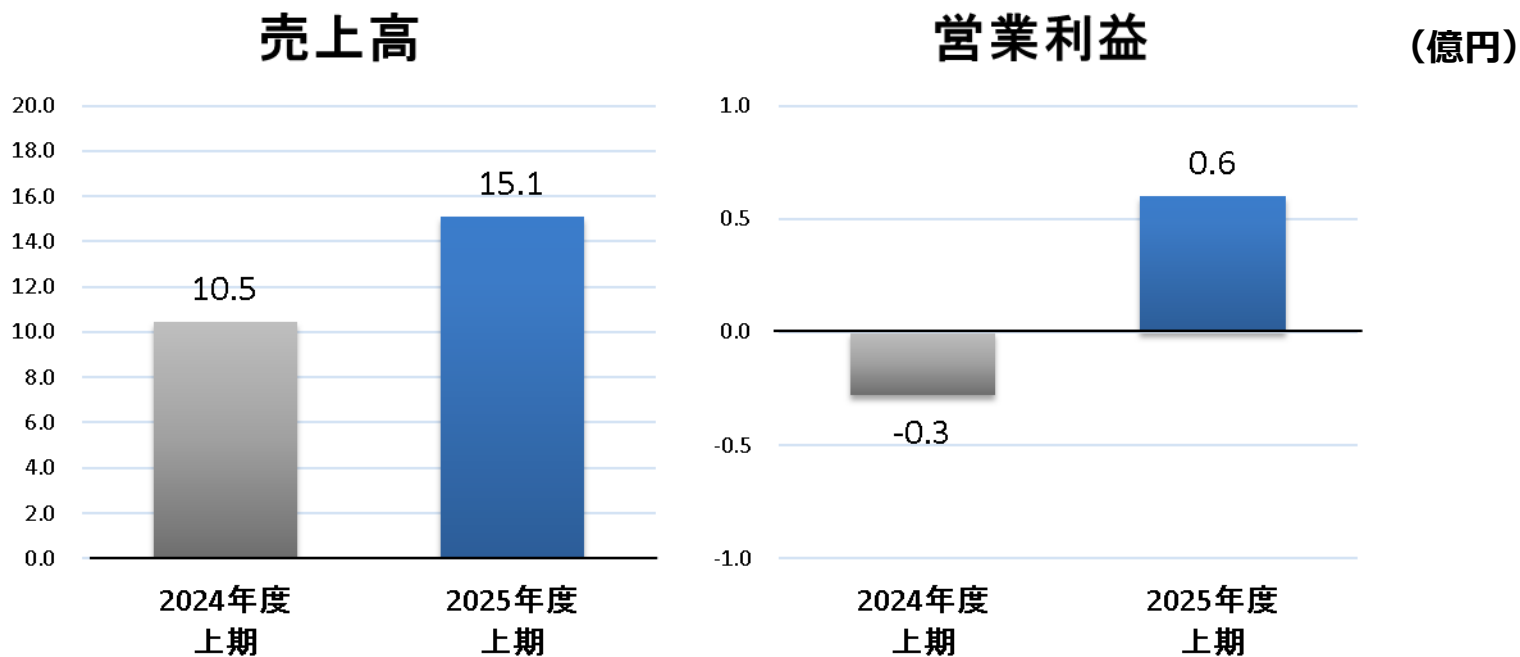
■ 売上高・営業利益（増収増益）

建設資材価格の高止まりや人手不足など依然として厳しい環境が続く中、今中期経営計画の施策で掲げている高付加価値活動の徹底やVE・CD提案の徹底によりビル新築・リニューアル事業ともに堅調に推移、価格改定効果の浸透も寄与し増収増益となった。また、受注高・受注残高は前期を下回ったものの（12頁参照）、上記施策等の徹底により高採算案件を中心に堅実な受注活動を進めており、収益性重視の受注構造への転換が進展中。



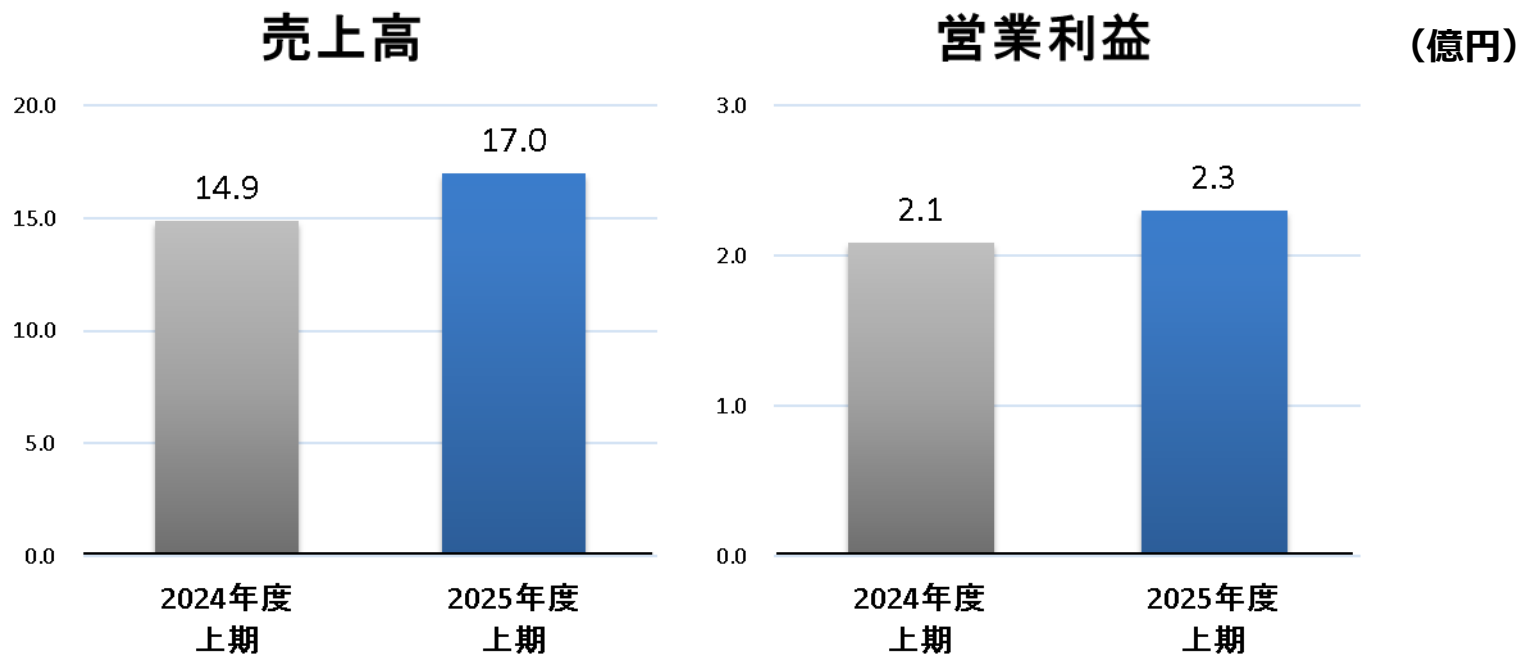
■ 売上高・営業利益（減収減益）

一般形材では、需要の鈍化による販売物量の減少の影響が大きく、運送費等のコスト上昇分を販売価格へ転嫁したほか、諸資材価格の抑制もあったものの、影響を吸収しきれず、収益性が低下した。加工品についても、販売構成比の高かった高収益製品の出荷量減少に対し、他製品の売上拡大を推進したが、全体として収益性が低下した。結果として、事業全体では減収減益となった。



■ 売上高・営業利益（増収増益）

プラント事業では、基幹改良工事を中心とした新規プラント工事が好調に推移し、プラント全体で売上・利益ともに増加。薬剤事業においても、物価高の影響はうけているものの堅調に推移し、売上・利益ともに前年を上回った。結果として、事業全体では増収増益となった。



■ 売上高・営業利益（増収増益）

売上は既存貨物の動きがやや低調であったものの、大型設備の輸出入や先端材料の輸入案件に加え、営業倉庫を中心とした新規案件の受注等が寄与し増加。利益面では配車効率化の取り組みにより、コスト低減し増益となった。下期からは新設された営業倉庫が本格稼働される予定であり、更なる収益基盤の強化を目指す。

連結貸借対照表要旨

(百万円)

		2025年 3月末	2025年 9月末	前期末比
資産計	現金及び預金	13,373	17,552	4,178
	売上債権	25,364	19,735	△5,628
	たな卸し資産	8,752	10,501	1,748
	貸倒引当金	△1,042	△1,073	△31
	その他	1,390	1,697	306
	流動資産計	47,839	48,413	573
	建物及び構築物	7,982	8,538	556
	土地	13,552	13,384	△168
	その他有形固定資産	5,903	6,147	244
	投資有価証券	3,799	4,117	318
	貸倒引当金	△882	△912	△30
	その他固定資産	6,091	6,169	78
	固定資産計	36,446	37,445	998
	資産計	84,286	85,858	1,572

		2025年 3月末	2025年 9月末	前期末比
負債・純資産計	仕入債務	15,183	13,003	△2,180
	短期借入金・社債	13,428	14,858	1,430
	その他流動負債	7,374	7,433	58
	長期借入金・社債	9,516	11,654	2,137
	その他固定負債	15,191	15,057	△133
	負債計	60,694	62,007	1,312
	株主資本	19,933	20,006	72
	その他の包括利益累計額	3,436	3,615	179
	非支配株主持分	221	228	7
	純資産計	23,591	23,850	259
	負債・純資産計	84,286	85,858	1,572

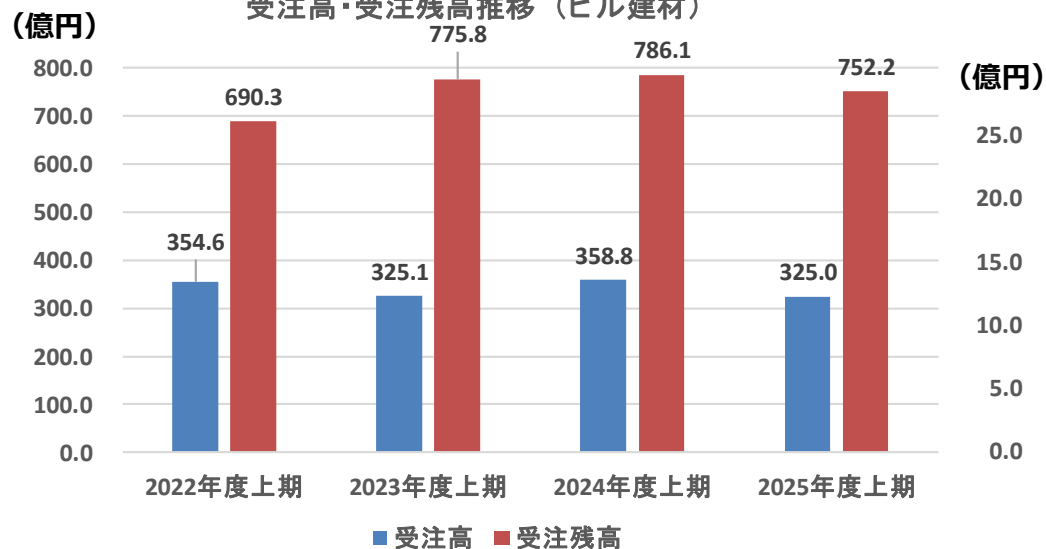
(百万円)

	2025年3月末	2025年9月末	前期末比
利益剰余金	17,422	17,546	123
自己資本	23,370	23,622	251
自己資本比率 (%)	27.7	27.5	△0.2
有利子負債	23,956	27,333	3,377
1株あたり純資産 (円)	1,853.1	1,883.0	29.9
R O E (%)	10.1	1.9	△8.2
E P S (円)	176.5	35.0	△141.5
期末配当 (円)	25.0	27.0	2.0

	2024年9月末	2025年9月末	前年同期比
税金等調整前当期純利益	△10	500	510
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,204	3,063	6,268
投資活動によるキャッシュ・フロー	△989	△ 1,879	△890
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,659	2,972	1,312
現金及び現金同等物の期末残高	13,084	16,244	3,159

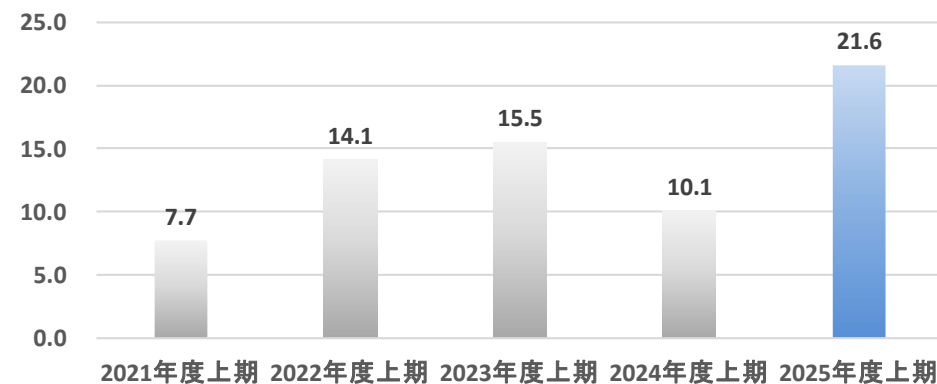
受注状況・設備投資他

受注高・受注残高推移（ビル建材）



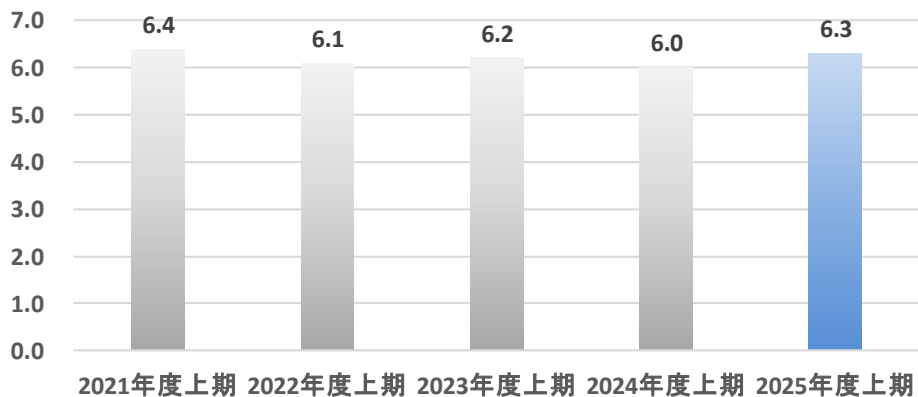
(億円)

設備投資額



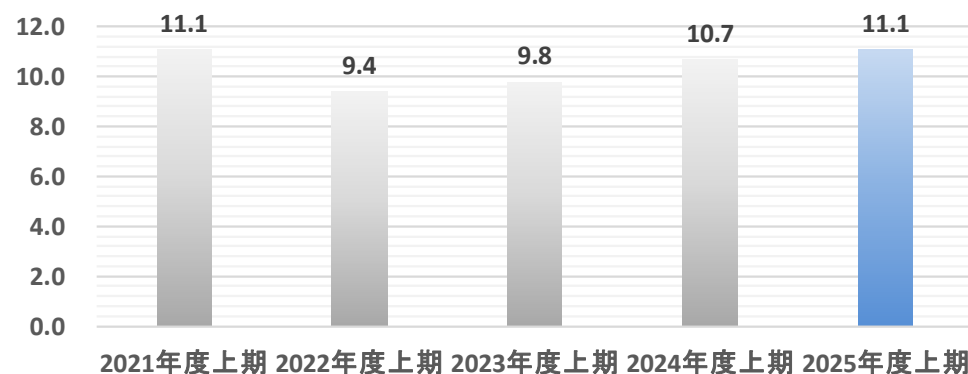
(億円)

研究開発費



(億円)

減価償却費



Ⅱ. 2025年度の業績予想

2025年度 連結通期業績予想について

【連結】

(百万円)

	2024年度		2025年度			
	実績		予想		前年同期比	
		売上比		売上比	増減額	%
売上高	104,754		107,000		2,245	102.1
営業利益	2,475	2.4	2,500	2.3	24	101.0
経常利益	2,742	2.6	2,750	2.6	7	100.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,225	2.1	2,150	2.0	△75	96.6

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正はありません。

Ⅲ. トピックス

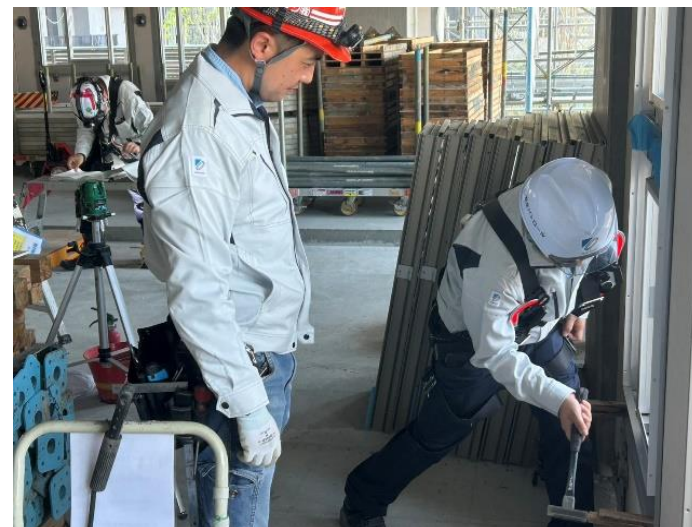
「不二サッシ施工技能者育成プロジェクト」の発足及び 「不二サッシS・C株式会社」設立のお知らせ

2025年6月3日

不二サッシは「中期経営計画(FY25-27)」に基づき、若手サッシ施工技能者の雇用・育成を目的とした「不二サッシ施工技能者育成プロジェクト」を発足し、その専担会社として「不二サッシS・C株式会社(FSC)」を設立いたしました。 ※「S・C」は「Specialty Construction」の略称です。

FSCでは、既存技能者による集中研修とOJTを組み合わせ、従来10年を要した技能習得を約4年で実現することを目指します。

本プロジェクトを通じ、技能者不足の解消と技能伝承を両立し、持続可能な施工体制の構築に努めてまいります。



カンボジア政府高官が不二サッシを公式訪問

2025年10月1日

2025年9月17日、カンボジア王国のプラク・ファラ外務・国際協力大臣とサラ・エッサ国務長官ご一行が、不二サッシ株式会社を公式訪問されました。
(両氏は9月15日～20日に日本を公式訪問)

当社は2022年度より毎年10名のカンボジア技能実習生を受け入れており、多くが特定技能へ移行後も継続就業しています。その高い定着率と安心して働ける環境づくりがカンボジアの人材育成や国の発展に大きく寄与していると高く評価され、今回の訪問につながりました。

当日は江崎社長をはじめ、関係部門の責任者との懇談や意見交換が行われ、今後の交流促進について意見が交わされました。
また、実習生との交流の場も設けられ、和やかな雰囲気の中で親睦が深まりました。



不二サッシ、株式会社ウッドフレンズと共同で アルミクラッド木製サッシを開発

2025年7月1日

不二サッシは、長谷工グループの株式会社ウッドフレンズ(愛知県名古屋市、代表取締役社長:伊藤嘉浩)と共同で、アルミクラッドを用いた木製サッシの開発を進めております。

本開発は、国産木材を活用した低炭素・高デザインの製品づくりを目的とするもので、ウッドフレンズの木材加工技術と当社のサッシ技術を融合し、品質を保ちながら一般市場に普及可能な価格帯の木製サッシを目指します。

アルミクラッド木製サッシは屋内側の木材で木のぬくもりを活かしつつ高い断熱性を確保し、屋外側をアルミで覆うことで、優れた耐候性とメンテナンス性を実現する構造です。

集合住宅での利用も視野に、2025年度中に片引き窓・開き窓の開発を予定しており今後も順次ラインアップを拡充してまいります。



不二サッシの建材向けアルミ形材が環境製品宣言ラベル「SuMPO EPD」を取得

2025年8月29日

不二サッシは、サステナビリティビジョン2050に基づき、2025年5月に建材用アルミ形材(Reサッシ R100・Reサッシ グリーンを除く)で、一般社団法人サステナブル経営推進機構(SuMPO)の環境製品宣言(SuMPO EPD)を当社として初めて取得しました。

SuMPO EPDは、LCA(ライフサイクルアセスメント)に基づき定量化した原材料調達から廃棄・リサイクルまでの環境負荷の第三者認証制度です。これにより、当社製品のCO₂排出量などを客観的に評価することが可能となります。

対象は千葉工場で製造される建材用アルミ形材(Reサッシ)で、ビル・住宅用サッシやカーテンウォールなどの環境負荷の「見える化」を実現します。今後はReサッシ R100・Reサッシ グリーンでも2025年度中の認証取得を予定しております。



<https://ecoleaf-label.jp/epd/2296>

リサイクル率100%「Reサッシ R100」 再生可能エネルギー製錬「Reサッシ グリーン」を新投入

2025年5月14日

不二サッシは、「不二サッシグループ サステナビリティビジョン2050」に基づき、不二サッシグループで国内製造販売するサッシとして、アルミリサイクル率を100%に高めた「Reサッシ R100」と、リオティント社グリーンアルミ「RenewAl™」のみで製造する「Reサッシ グリーン」を販売開始いたします。

Reサッシ R100

アルミ市中回収材およびリターン材のみを使用。

原材料～製造段階のCO₂排出量は
型材1kgあたり2.9kg-CO₂eq



原材料～製造段階CO₂排出量
リサイクル未使用品比81%削減
※各数値は自社計算による

Reサッシ グリーン

リオティント社のグリーンアルミ
「RenewAl™」のみを使用。
同社のアルミ製錬Scope1,2に関する
証明書付、4.0kg-CO₂eq/kg保証



製錬所CO₂排出量
世界平均比66%削減

【環境とコストの両立】
建築業界の脱炭素ニーズ
に応え、「Reサッシ R100」
においては独自技術により
従来品と同価格帯で販売
いたします。

窓から夢をひろげていきます
不二サッシ